宮城県森林インストラクター協会

mif news

7／10（土）奥松島
PK 活動
ＰＫって何だ？（→5 ページへ）

令和3年9月発行 79

巻頭言

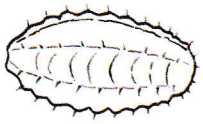
会長　14 期　髙橋　孝紀

暑さのピークは過ぎつつありますが、協会活動は、猛暑版の活動案内の通り、これから秋に向けてピークを迎えます。引き続き、活動参加のご支援をお願い申し上げます。

生涯発達心理学には「人生の正午」という言葉があります。自分の人生を振り返ってみた時、あの頃がピークだったなぁと、しみじみ思うそんな人生の一時期をいうようです。多くの人が、体力もあり仕事もバリバリやっていたあの頃は良かったと、この「人生の正午」の時期を懐かしみます。しかし、本当に「人生の正午」は過ぎ去った過去の事なのでしょうか？　確かに体力は若い時には叶わないかもしれません。仕事も後輩に引き継いでいるかも知れません。でも、今まで培った技術や仕事のコツ、積み上げた人と人とのつながり、後輩への心配り等々、円熟味が出る時期はもっと後にあるかも知れません。そして、私たちの物指しには様々な視点があり、仕事や体力で一律に「人生の正午」を図るものではないのかも知れません。あたかも、暑さのピークは過ぎても傾く日差しに温かみを感じる実りの秋が訪れる様に、寒さの厳しい寒締めの時期に甘味あるまろやかさを蓄える様に、一律の尺度ではなく、それぞれの自分が、様々な視点で「人生の正午」を迎えるものだと思います。特に、私たちボランティア集団においては、多くの個性の持ち主が集まり、人生で培った様々のノウハウを蓄えたメンバーがたくさんおります。そして、本当の意味で社会貢献をするのは寧ろこれからです。若い頃のインプットをアウトプットに変える、今こそ、今が「人生の正午」といえる自分になりたいものであります。

サムエル・ウルマンの有名な詩にある「青春とは人生のある期間をいうのではなく心の様相をいう」という言葉に通じるものがあります。それぞれの「正午」を森の活動で感じて頂ければ有難いことです。

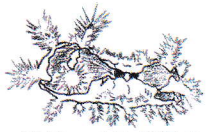
P.1　巻頭言
P.2　きかくがいろん
P.3　事業部報告
P.4―5　活動報告
P.6－7　海岸防災林現地ルポ
P.8　私の一押し（施設だより）
P.9　リレー式／安全
P.10　生物多様性を考える2
P.11　インフォメーション／編集後記
P.12　活動写真館



イラガに見えない
ケムシにさえ見えない
戦慄のウスムラサキイラガ落下

Gekiron! きかくがいろん Bouron!

～　減災　豪雨と猛暑に対抗するための三つの手段　～



恐怖のイラガ落下

1期　木村　健太郎

今年も豪雨災害が相次いでいますが、やはり近年のわが国の夏は異常ですね。猛暑と豪雨は、地震と津波以上に本気で対策を講じる必要が出てきています。

その相次ぐ豪雨の原因として、連日のようにいろいろな方が私見を述べています。これを環境問題ととるか、社会問題ととるか、地域防災の問題ととるかによって、原因や対応手段も変わってきますが、簡単に解決できる問題であるはずがありません。

「地球温暖化」が叫ばれてから３０年以上経過しましたが、CO_2の排出を減らせばすぐに猛暑や豪雨災害が減ると思っている人はいないと思います。

そもそも、人命と国土を守ることが第一の目的だとしたら、急速にCO_2の排出を減らすことでたくさんの産業が立ちいかなくなり、餓死や自殺が急増するとともに国土を保全する予算が枯渇していく未来を目指すのはおかしいのです。

日本は先進国第二位か三位、約６８.５％の森林率を誇りますが、さらに私が生まれた５０年前から森林面積は減っていません。木は成長して森林資源量はどんどん増えているので、それだけCO_2を吸収してきた国なのです。森林率がたかだか１３％ほどのイギリスや、３０％とちょっとのフランスやドイツにとやかく言われる筋合いはありません。ただ、それだけ外国の森林を減らしてしまったと言えなくもないのですが。

だから、この猛暑と豪雨に対しては、諸外国の眼など気にせず、日本がやるべき対策を考えましょう。森林資源量が増えているということは、豪雨で崩落しやすい森林が増えているということです。間伐遅れのスギ・ヒノキ林や、斜面に瀕死の大きな広葉樹が多いということでしょう。

このことから、第一の手段は、「森の間伐と若返りによって、雨の吸収量を増やす」です。収益は赤字でいいので、防災のためにどんどん木を切って有効に使いましょう。

猛暑について考えます。当事務所はクーラーなどありませんが、誰も「暑い」なんて言いません。「暑い」という言葉を発するのは、業務中にどんどん大好きなアイスを食べるのを正当化するためです。

なぜいつも涼しいのかというと、事務所自体が木陰になっているからです。風通しの良い木陰が涼しいのは当然ですが、さらに整備が行き届いており快適に過ごせて、周囲にクーラーやアスファルトのスペースがないことも重要です。

このことから、第二の手段は、「新型コロナ禍を逆手にとって人口密度を下げ、木陰の多い緑地を増やす」です。やはり、夏は木陰を作って冬は日あたりを確保できる落葉樹がいいですか。しかし落葉樹はドクガやイラガが落ちてきて閉口するので、シラカシのような常緑樹がいいのでしょうか。メタセコイヤなんかが万能かもしれません。生物多様性に反しそうですが。

子どもたちに聞くと、クヌギを植えたいという答えが多いです。絵本などの影響でしょうか。

２０年以上前に、故 西口親雄先生から、クヌギは在来樹ではなく、天蚕（ヤママユガ）を育てたりドングリを食べたりするために植栽したものだと聞かされて「本当かなぁ」と思っていましたが、今では私もそう思います。クヌギも生物多様性的にＮＧでしょうか。

いずれにしても、快適な緑地の整備と保全は最も大切。歳をとったらこのことに命を懸けたいです。

ただ、そもそも自然が豊かで季節の移ろいが激しく地形が複雑な日本に生きている限り、暑くて寒くて虫が多く坂道が多く自然災害が後を絶たないのは当然のことです。それを受け入れて、楽しんだり、粘り強く戦ったりしていくしかないのです。熱中症も、豪雪も、アブやハチに刺されるのも、川が氾濫するのも、自然が素晴らしい国で生きている代償です。それだけたくさんの恵みも享受しています。

豊かな自然のさまざまな弊害に対して、公共工事やエネルギーを駆使して対抗していますが、技術的にも資金的にも限界があります。やはり基本は、雨にも風にも夏の暑さにも負けないこと。自然の生き物として逞しく生きていけるように、普段から身体と精神を鍛え、感性を磨いておくこと。第三の手段は、「自然と戦い共生できる逞しい人間を育てる」です。

猛暑と豪雨に対抗する三つの手段について考えてみましたが、当協会の活動は、この三つのすべてに当てはまります。特に、我々もいつまで活動できるか不安になってきたので、「環境のことをしっかりと考えてくれる逞しい人間を育てる」。つまり若い人材育成が最大の目的になるのではないでしょうか。

確かに、しっかり環境のことを考えている子どもや学生に会うこともあります。しかし、たいてい色白で、どうやらネット上の知識で話をしているようです。当協会の方々と小学生が一緒に活動しているのを見ると、会員の方々は黒い。小学生は白い。新型コロナ禍、なかなか外で遊べずプールにも入れないのかもしれませんが、日焼けした元気な子を見つけると、それだけで楽しくなってしまう昨今です。

県民の森四季の森刈払で感じたこと　イノシシの勢力拡大

環境・森林事業部　　３期　原　恒夫

平成２７年から県民の森四季の森刈払作業を当協会で行っていますが、ここ数年イノシシ被害が特に目立って増えています。

例年刈払作業を始める７月はヤマユリの開花時期ですが、２～３年前から大輪の花を咲せるヤマユリほど球根がきれいに掘り起こされてなくなっているのです。刈払作業を始める前の注意事項として、ヤマユリやアザミなどの有用植物は残すように指示していたのですが、今年は特に虚しいです。また、みちのく文化の道やうぐいすの道の法面が掘り起こされ、クズなどの根を食しているようです。うづきの道の梅園下部はイノシシの生息場所になっているようで水辺の森湿地帯は蒐場（ヌタバ）と化しています。四季の森以外でもヤマユリは全滅状態で、それ以外にも青少年の森では芝生広場のミミズ、苗畑倉庫前廃菌床のカブト虫幼虫も掘り起こされました。

西巻さん夫婦が大事に管理している苗畑のジャガイモ畑においてはイノシシ防止柵を設置しては破られての繰り返しです。つい最近では学び舎デッキ前のプランターに毎年咲いていたオレンジ色の鮮やかな花のオニユリが無残にも掘り起こされていました。

イノシシ被害は今まで西のほうの話と思っていましたが東日本大震災以降は県南の丸森町・角田市で生息が確認され、その後仙台市西部でも確認され問題化していました。それがあっという間に北上して秋田・青森県でも目撃情報があるそうです。イノシシ北上と増加の原因は地球温暖化、中山間地域の荒廃、狩猟人口の減少があげられ、特に 1970 年代の水田の減反政策で耕作放棄地が増え、イノシシ増加の大きな要因となったようです。ではどうすればイノシシ被害を防げるか、上記の対策は上の方で考えてもらうとして、私達が取り得る対策としては、富谷市などが実施している鉄格子の防止柵を必要箇所に張り巡らしてイノシシ侵入を防ぐこと、破られたら次の改善策を考えることかと思います。うまく棲み分けできる方法を考えていきたいですね。

コロナ対策しながら動き出します！

海岸林再生事業部　14 期　水原　洋一

コロナの流れの中で始まった令和３年度の海岸林再生事業部の活動は、保育作業に留まらず周辺の施設とも連携しながら、減災・環境教育の要素も盛り込んだ誰もが楽しめる活動を目指して行く方針が示されています。また、宮城県の動きとして「みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会」が３月に発足し、その下に保育管理を担当する「防災林検討部会」と、海岸防災林の活用や普及を担当する「地域づくり検討部会」が設けられることが、会報 78 号で紹介されています。

「活動案内 猛暑版」でお知らせがありましたが、昨年度まで植樹を行った東松島市、仙台市荒浜（彼方此方）、岩沼市、山元町の各植樹地の刈払いなどの保育活動を９月まで行う計画です。更に今年は、気仙沼市岩井崎地区で新たな植樹活動も予定されています。また、東松島市で９月に行われる「少年団大会」をはじめ海岸防災林を活用した保育イベント（７月 12 日六郷小と同じような活動など）も計画されています。何より 22 期生の方々の参加枠が設けられたのは、楽しみですね！

その中で９月に植樹を予定している気仙沼市岩井崎の下見を行って来ましたので、紹介させてもらいます。（海岸防災林現地ルポでもチラッと出ていますヨ）

三陸道から 45 号線を通って岩井崎に向かう途中の「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」近くの高～い防潮堤の直ぐ下に植樹予定地（静砂垣で 12 区画に区切られ、約 0.19ha）が有りました。防潮堤の上からは太平洋はもちろん、気仙沼大島や気仙沼湾横断橋が望まれます。青少年の森から約 130 ㎞、1 時間 40 分ですが、植樹以外にいろいろ楽しめそうですよ！

防潮堤の下に植樹地、奥に伝承館と右に慰霊塔（防潮堤上から）

【7/12（月）仙台市立六郷小学校３年生海岸防災林活動】20 期　髙橋　秀

７月 12 日（月）仙台市立六郷小学校３年生海岸防災林活動が開催され、児童 129 名と先生５人の計 134 人がバス３台で荒浜海岸に集まりました。指導に当たるスタッフ総勢 32 名の大規模イベントです。

除草地に向かう道すがら、海辺の植物観察をしながら移動しますが、ギャングエイジの小学３年生、葉っぱ遊びに夢中になったり、危険な植物に触りそうになったりと、引率担当インストラクターは、片時も目が離せません。

植樹地では、先輩たちが植えたクロマツの苗木を、雑草を抜いて助け、立派な防災林になるよう活動します。最初は、まじめにモミジのような手で夢中に草むしりしていた子どもたちも、飽きてくると空手チョップでクズのツルを切ろうとしたり、これまた目が離せません。生き物観察は、貞山運河でフナムシやクロベンケイガニ、テナガエビの観察。最初は見ているだけの子どもたちも、興味が出てきたのか、初めてのカニ取りにチャレンジ。勢い余って片足を川に浸けた子どもも。でも初めて捕まえることができた、生きたクロベンケイガニに興奮気味。

最後のカリキュラムは海岸のマイクロプラスチックゴミ清掃とビーチコーミング。砂の中にあるレジンペレットと呼ばれるプラスチックの小粒や浮き輪のプラスチック片を回収しながら、環境問題を考える活動。初めは、まじめにゴミ拾いしていた子どもたちも、磯の香りと、波音の誘惑にはかないません。ゴミ拾いがいつの間にか、きれいな貝殻拾いや砂遊び、そして波との追いかけっこと皆夢中です。

昼食は学校で取ることになっていて、各班時間厳守。

集合時間になると海岸のあちこちから「〇班集合！」の引率インストラクターの声が聞こえますが、肝心の子どもたちは、海岸で砂遊びをしたり、ゴミ拾いを続けていたり、海岸を駆け回っていたりして、班のメンバーを集めるのも一苦労。インストラクターが声を枯らしながら必死に皆を集めます。炎天下、喉は枯れ、多少疲れましたが、大きな事故もなく無事、皆を送り出し一安心。初めて生きたカニを捕まえた感動、海岸林の大切さ、環境問題や海の楽しさ等、子どもたちの心の片隅に少しでも残ってくれると良いのですが。

最後に「楽しかった！」と子どもたちが笑顔で声をかけてくれ、それまでの疲れも一瞬にして吹き飛びました。

ちなみに、次のイベントを 11 月に、青少年の森で山編として予定しています。参加希望のインストラクターの皆さん、今から喉の鍛錬をお忘れ無く！

【7/24（土）西コミ自然ふれあい学校】　20 期　樋渡　悦子

令和３年度「西コミ自然ふれあい学校」第２回～みんなで森作りや虫取りや水遊びや工作を楽しもう～が開催されました。

開校式は、富谷市長の若生裕俊氏の挨拶から始まりました。西成田コミュニティセンターは、かつて小学校で、市長は富谷小学校と統合される小学４年生まで、ここで学んだそうです。当時とほとんど景観は変わらないが、唯一震災で崩れ再設置された二宮金次郎の像が、以前よりぽっちゃりしているので、今は栄養が良くなったのだな…とのお話に皆の笑いが…。

今回は、森作り活動で集めたポイントで水遊び、ネイチャークラフトに参加するというものです。

森の中は、オニヤンマ、シオカラトンボ、ハグロトンボなどが舞い、ポイントに関係なくても、つい虫取り網を振り回してしまいます。ミミズは気持ち悪いと言っていた女の子も、葉っぱに乗せたらなんとか OK。２ポイントゲットです。カナヘビ（３ポイント）は素早くて、なかなか捕まえられません。食べられるキノコゲットで４ポイントですが、インスタラクターでも判別できず難しいなと感じました。（ちなみに毒キノコは４ポイントマイナス！）

お楽しみのクロベンケイガニ釣りは、貴重な体験です。最後は水遊びになり、びしょびしょですが、暑さのなかちょうどいい感じでした。

新型コロナの影響で、昨年より参加者は少ないですが、子どもたちのパワフルな姿に、夏バテ気味の森林インストラクターのメンバーも元気をもらいました。

ゲーム機やスマートフォンの普及、遊ぶ場所の減少により、子どもの外遊び時間が減っている現在、このような活動はとても大切だと思います。次の教室にもぜひ皆さん参加しましょう。

【7/3(土) 一発ネタ研修】

２期　進藤 恵美

イベント時の引率がどうも苦手です。「引率」とは活動場所まで子どもたちを引き連れて行く間に、自然界の様々なことに興味を向けさせる役割。楽しそうだなあと思わせたら大成功。引率会員の紹介時に「今日が楽しいかどうかの明暗が決まる」と冗談めかして言われるのにも一理あります。会員それぞれが工夫し、ネタを仕込むのですが、レベルの向上を目指して、一発ネタ研修会が開かれました。コロナ禍で、子どもたちが夢中になる笛ネタが使えません。「こんなネタもあるよ」と夏の葉っぱを使った技を研修しました。お馴染み、カタバミの葉で 10 円玉をこすってピカピカにしたり、オオバコの丈夫な維管束を利用して笑いを取るネタ、ヒデリコで作るミニリース、アメリカセンダングサのやじろべえ、カキドウシの葉で作るコサージュ、アオキ・タラヨウの葉のお手紙、コウヤマキの葉で作る鬼滅剣、セイタカアワダチソウのやり投げなど、散策道の植物たちが工夫次第で遊び道具になりました。中でもきれいだなあと思ったのが、ガクアジサイの花の浮遊マジック。葉っぱの浮遊マジックとはまた違った趣でした。

午後は、長い葉っぱを使った編み物研修。シュロの葉で、手裏剣、熱帯魚、バッタを作りました。これがまた空間把握能力がない私には難関、上達するためには何度も練習すること、練習には扱いやすい紙テープが良いとのことでした。わかりやすく解説した本に「作ろう草玩具 一身近な草や木の葉でできる」（佐藤邦昭著築地書館）があります。作るのに夢中になって引率の子どもたちを置き去りにしないようにネ！

鬼滅剣

シュロを使って編み物研修

アジサイの浮遊マジック

【7/10（土）PK・プログラム研究研修会：海岸（東松島）版】

９期　小島　恵子

当協会では、防災林の植樹活動から始まり、現在では海岸での活動も多くがなってきています。生物に触れあいながら自然環境を学ぶプログラムを多数ストックしていますが、ここ奥松島には運動公園があり、親子を対象とした活動も視野に入れながら、新しい海岸活動プログラムを作っていこうと、プログラムの研究（略して PK）研修会が行われました。

奥松島の大浜をスタートし月浜、三サ河そして稲ヶ崎の海岸線を参加者全員で散策しました。ハマナデシコや海浜植物を観察し、貝殻や海藻を拾ったり、潮だまりを覗いたり、砂浜を掘る、岩に上る、埋もれた網を掘り出すなど、それぞれが思い思いに楽しんだ活動となりました。

海辺をゆっくり歩いたのは久しぶりでしたので、子どもの頃に遊んだ記憶が甦ってきました。ケンタロスお手製の網で波をすくうと５㎜にも満たない小さな生物（コクボフクロアミなど）が大量に網に入りました。砂粒と一緒に団子状に丸めると手に取りやすくなり、そっとすくってみましたが、その瞬間なんともいえない背中ザワザワの感触（うまく言葉では表現できない）に、思わず団子を落としてしまいました。（皆さんにも、是非この感触を味わってもらいたい。）また、釣り餌にしようと、ヒメスナモグリムシの捕獲に皆が夢中に。新しいプログラムの開発は、もちろん危険を回避して安全が第一ですが、大人の目線だけではなく童心に戻って感じること、自分自身も楽しむことからヒントが得られると感じた研修でした。（表紙写真も参照）

ハマナデシコ

思い思いに観察です！

おっ、大漁だぞ！

現地ルポ 第２弾
石巻エリア編

前号（78 号）気仙沼編に続いて、「ワクワクみやぎの海岸防災林」ガイドマップの石巻エリアを原田広報部長が案内します。自然体験を満喫できる場所が多数！！今回は「師匠」こと「木村 Jr.」が、夏休みでアクティビティに特別参加してくれました！

1、白浜ビーチパーク からのスタート。白浜海岸に隣接し平成 31 年にデイキャンプ場としてオープン。手ぶらでバーベキューできるはずが、残念、閉鎖中（涙）

2、長面浦

山に囲まれ水路で海と繋がる汽水内海。環境省の重要湿地に選定されています。未だにほとんどの部分が工事中で立ち入ることが出来ないため、到着するも植樹地到達ならず。

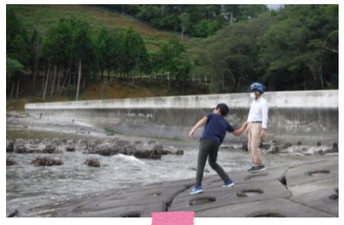
3、雄勝港

進撃の巨人か！
垂直巨大防潮堤

最大高 9.7m、長さ 3.5ｋｍの壁が新しい街と海を隔てている。

4、御前浜

薄く平らな雄勝石で水切り対決。
最高記録は**6 連！**
潮だまりにはカニやチチブが遊んでいたよ。



5、女川の眺望

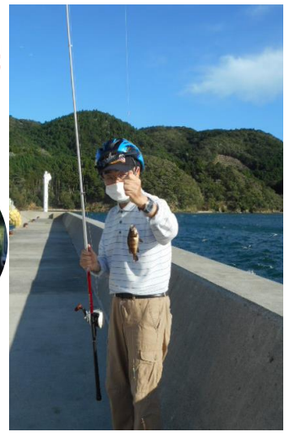
女川の海岸通りは新たな交流の場。スケートパークもあるよ。

6、十八成浜　十八成浜海岸防災林は、鹿の食害から守るための柵を設置しています。柵の周りには鹿のフンがコロコロ・・・。

7、月の浦

支倉常長出港の地
慶長遣欧使節団に想いを馳せて・・・

8、桃の浦



9、大曲植樹地

５年前に植えた松がこんなに大きくなりました。今年９月のみどりの少年団大会は、この地で保育活動。みんな参加してね！

10、東名運河　釣り対決第２弾

11、野蒜　奥松島運動公園で野球対決！

ゴール

どこもかしこも未だに道路工事だらけでした。立派な道路完成後はアクセスが抜群によくなることでしょう。行ってみて！

【カツラを見上げて四季折々・・８号遊歩道】　１７期　持田　立子

県民の森にお世話になり、もうすぐ２シーズン。巡視で遊歩道をあちこち歩くことで、季節の移ろいと森の様子が頭で整理できるようになりました。

カツラの木が好きです。まっすぐに高くそびえる姿、ハートのようなまあるい葉、芳しいかおり、そして判りやすい（笑）。私の一番のお気に入りは、せいそんの句碑から長い階段を降りて、水辺にカツラが並んでいる８号遊歩道です。

春は、カツラや他の広葉樹の芽吹きが輝き、小さな草花がひっそりと咲き始め楽しませてくれます。５月にはキビタキやオオルリのさえずり、時にはサンコウチョウの声も。梅雨が明ける頃の晴れた早朝には、シジュウカラやヤマガラの幼鳥が「餌をくれー」と必死に鳴く声が重なります。今年は運良くコゲラとシジュウカラのご一家の様子を観察することができました。

真夏は、森が眩しい陽射しを遮ってくれます。ため池にかけては、トンボ天国ということも知りました。蝶や虫もたくさん飛び交います。色々なことを知り始めると、生態系がここで成り立っているんだなぁと豊かさを改めて実感。

秋には、カツラが黄色に色づくとメープルシロップのような香ばしいかおりに満たされます。成分は何だろう？と思って調べてみたら、マルトールという有機物で焼き芋にも含まれているそうです。どうりで好きな香りだ（お芋好物）。晩秋には黄色の絨毯、葉が落ちれば野鳥の観察シーズンも始まり、エナガやカラ類が忙しそうに飛び交います。

キュッと寒い頃には、人も少なく森の奥深くに入り込んだような静けさ。雪が積もれば極上の景色。

県民の森に行った時には、必ず立ち寄る私のパワースポット。中央記念館・青少年の森どちらからでも往復１時間くらい、四季折々のぶらぶら歩きにもおすすめです。

【四季折々楽しめる蔵王野鳥の森へ】　１７期　山下　一訓

野鳥の森は、後烏帽子岳の東山麓に位置し総面積78ha、標高は400m～800mあります。標高の低い東斜面と南斜面には主にアカマツ・コナラ林が、一方、北斜面から標高の高さに連れてブナ・ミズナラ林が形成されています。植物相は１１１科５３１種が確認されています。そこにホオジロコース、コゲラコース、ウグイスコース、メジロコース、ヤマガラコース、カッコウコース、オオルリコースという７つの遊歩道があり、豊富な動植物たちを楽しむことが出来ます。

春：　３月に最初に咲く花、「マンサク」が黄色い花を咲かせます。雪が融ける頃、スプリング・エフェメラルと言われる「カタクリ」「キクザキイチゲ」が短い命を咲かせます。ホオジロコースには、「ミズバショウ」「リュウキンカ」が、５月になるとオオルリコースでは「ムラサキヤシオ」「シロヤシオ」「ヤマツツジ」が楽しめます。

夏：　初夏は白い花の開花が目立ちます。「ハクウンボク」「エゴノキ」「ヤマボウシ」「サルナシ」「オオバアサガラ」など。「ヤマユリ」が咲きだすと盛夏です。水が豊富なホオジロコースでは、マイナスイオンを吸いながら水遊びを楽しむことが出来ます。

秋：　「カジカエデ」「イタヤカエデ」「マルバカエデ」「エンコウカエデ」「ハウチワカエデ」「ウリハダカエデ」「ミツデカエデ」「ヤマモミジ」「メグスリノキ」など沢山のカエデがあり、この季節は紅葉・黄葉を楽しむことが出来ます。特に澄川近くの「ハウチワカエデ」の紅葉は見る価値があります。

冬：　野鳥の森に雪が降ります。降り積もった雪の上をスノーシューを履いて自然観察をします。冬芽の観察、キツネ・タヌキ・カモシカ等のアニマルトラッキングを楽しむことが出来ます。一番の人気イベントになっています。

四季折々に沢山のイベントがありますので、参加してみてはいかがですか？

野鳥の森入口の案内板

安全のページ

観天望気のことわざ

15 期　阿部　三郎

「朝焼けは雨、夕焼けの翌日は晴れ」ということわざを聞いたことがあると思います。これは、空の色や雲の流れ、風の方向などから、これまでの経験を基に天気を予想する「観天望気」から生まれたものです。天気のことわざは、全国いたるところにたくさんありその中には、全国共通のものもあれば、地域限定のものもあります。となりの福島県では『福島県の天気のことわざ』なる図書も出版されています。宮城県にはまとまったものはありませんが、断片的なものが残されています。「薬莱山に雲がかかれば雨」（ 加美郡加美地方）：雨を降らせる下層雲は高度が低いので、この辺の低い山（薬莱山：標高 553m）に雲がかかるのは雨の前兆と言われるのも頷けます。このほか「蔵王に雲が帯になると雨」（柴田郡川崎地方）、「太白山の方から雲が出てくる時は晴れで、入っていく時は天気が悪くなる」（仙台市太白区大野田）などがあります。観天望気は、目視により判断するため、長期的な天気の変化は分かりませんが、短期的かつ局地的な天気の変化には有用だと言われています。また、観天望気に類することわざの中には、気象学的に説明できるものも多く、農業や漁業に携わる方は、天気予報の精度が向上した今日においても、天気の急激な変化に対応するために役立てているそうです。私も自然の中で活動する者として、天気のことはもちろん、危険生物の出現などもいち早く察知できるよう感覚を養っていきたいと思います。皆さん、活動の合間に空や山も眺めてみましょう。いろいろな形や色の雲が出現し、同じ色や形の雲は二度と出ません。ことわざにある現象が現れたら、天気予報と比べてみて、ことわざどおりの天気になるか確かめてみるのもおもしろいと思います。

うろこ雲：天気が下り坂に向かう

リレー式　会員の広場

巨樹・巨木を愛す

17 期　福士　實美

NHK の BS 番組「日本縦断こころ旅」で度々巨樹に火野正平さんが感心する場面が出てきますね。実は私も巨樹・巨木ファンです。私が山形県内で勤務した際、最上地方の巨樹の写真コンテストがあることを知り、私も「女甑山の大桂」の巨樹の下に妻を立たせ、巨樹の巨大さを強調した写真で応募してファミリー賞を受賞し、これがきっかけで巨木ファンになりました。それからは東北各地の巨木を探訪するため休日には忙しく巨樹を探して会いに行く日々となりました。

巨樹に会うと、人間なら逃げてしまう大嵐や吹雪など激しく危機的な自然環境を甘受し、耐えて数百年も立ち続けていることに畏敬の念がわきます。その姿は苔むしても環境に折り合いをつけて自在に形を変えてきた結果、異形になった木もあり、真っすぐに生きなくてもいいんだよと言ってるようで悩みでも何でも聞いてくれそうです。同じ場所で世の移り変わりを見つめるその凛々しさと生命力にパワーを感じ、敬うようになり、神を感じます。神社境内のご神木は神が宿るといわれてしめ縄を張り、崇拝されていますが、山の中の巨木からも圧倒的なスケールと威圧感、荘厳さから神威を感じることが多く、このような巨木やその巨木が生きている自然を後世まで残すことが大事だと感じ、自然を保護・紹介する活動に目覚めました。

天然記念物や指定保存樹に指定された巨木はそれなりに注目され、管理されますが、ひっそりと立つ巨木もたくさんあります。それで「全国巨樹・巨木林の会」に入会して日本国内の巨木の情報を取り入れて会いたい巨木リストを作って四国八十八ヶ所巡礼や西国三十三観音などの百観音巡礼の際にはその地の巨樹をも探訪し、登山のツアーでは屋久島の縄文杉まで会いに行きました。また、全国巨樹の会主催の関東地方の巨樹探訪ツアーにも何度か参加して巨樹を愛する仲間と感動を共有しました。これは神社仏閣を巡礼する気持ちと相通ずるところがあり、いわゆる神の宿る木というパワースポットを巡るようなものです。

ところで、私が一番好きな巨木は盛岡市の石割桜です。あの大きな石を割って巨木に育ち毎年美しい花を咲かせるそのパワーには感動を越して畏敬の念を感じさせます。まさしく脱帽です。

周囲 21mの花崗岩を割って咲く　盛岡石割り桜
（幹回り 5.5mのエドヒガン桜）

次回は２０期　伊藤弘子さんにバトンを渡します。

シリーズ　＜生物多様性を考える＞　２

生物多様性とは何か

前号では、生物多様性についての様々な視点を紹介しました。今回は生物多様性の意味と押さえておくべきポイントをQ&A形式でまとめてみました。

Q：生物多様性とはなんでしょう？
A：生物多様性には①遺伝子の多様性、②種の多様性、③生態系の多様性の３つの段階があり、そのすべてが維持されていることを生物多様性とよびます。

Q：３つの多様性とはどんなものですか？
A：①遺伝子の多様性とは、同じ種の集団内に遺伝的な多様な変異が存在する状態を指します。例えば同じ種類のチョウの集団が二つあった場合、天敵の侵入という環境の変化に対して、遺伝的変異がない集団は天敵にすぐに見つかり食べつくされてしまいますが、羽根の色や模様にバリエーションのある遺伝的変異が豊富なチョウの集団はその一部が保護色や警戒色になったりして、天敵の捕食から逃れることができ、全滅を免れることができます。
②種の多様性とはいろいろな種類の生物が生息している状態を指します。種の多様性が高い生態系では、生物間の「食べる－食べられる（食物網）」の関係が複雑なネットワークでつながっており、１つの種が激減しても他の種が補うことにより生態系は維持されます。しかし、種の多様性が低い生態系では、１つの種が激減した場合、それのみを捕食する種も一緒に激減し、生態系のシステムは崩壊してしまうのです。
③生態系の多様性とは、地球規模の生態系ネットワークが存在する状態を指します。たとえば、海洋には海洋という環境で進化した生物の群集が存在し海洋の生態系を作っているし、森林には森林の、砂漠には砂漠の生態系が存在しています。そして森―川―海といった生態系は、それぞれに固有の生態系を持ちながら互いにつながって物質とエネルギーの循環を果たしているのです。

Q：３つの多様性はすべて必要なのでしょうか。
A：生物にとって生命に必須の酸素、水、食べ物が安定して供給されるのは、安定した生物圏が存在するからであり、それは様々な生態系が地球上に存在して支え合っているからです。さらに一つ一つの生態系を支えているのは種の多様性であり、それぞれの種を支えているのは遺伝子の多様性です。このことから３つの多様性が全て揃っていることが必要だと言えます。

Q：生物多様性にはさらに大きなレベルでの多様性があるという意見もあるそうですが。
A：それは、④景観の多様性です。景観とは、地域ごとの地形や気候といった環境要素とそこに住む生物が作り出す固有の生態系との組み合わせによって作り出されるものです。景観の多様性は生物の生息地の多様性を反映するものであり、人間にとって生物多様性を実感する上での重要な指標となります。また景観の多様性は、その地に存在する人々の様々な文化や芸術を生み出す素地ともなっています。すなわち生物多様性は、究極的には人間の情緒にも関わる重要な環境要素なのです。

Q：人間が引き起こすとされる大量絶滅（生物多様性の危機的状況）の問題点は何でしょうか。
A：これまでに「大量絶滅」は５度ありました。そして、現在、生物の歴史上６度目の大絶滅が進行しつつあり、その原因が人間の活動によるものだと言われています。生命の絶滅自体は自然な現象として繰り返されており、生物の進化にとっても重要なイベントだと言われています。今人間が大量絶滅をもたらしたとして、何が問題なのかと考える人もいるでしょう。ただし、ここで重要なのは、新しい生物多様性を生み出すための進化にかかる時間は大変長いということです。現在の人間活動による大量絶滅の速度はこれまでの歴史の中で群を抜いて速く、生物多様性の崩壊もあり得なかった速さで進み、回復するための時間もとてつもなく長いものになる可能性があるとすると、その長い時間を人間という生物が乗り切れるかどうかという点も問題なのです。

Q：では、人間活動は具体的にどんな形で生物多様性を脅かしているのでしょうか？
A：絶滅の最大要因として、①生息地の破壊や悪化　②乱獲　③外来生物　という３つが挙げられます。

Q：①生息地の破壊や悪化とは具体的には？
A：人間活動の中で生物多様性に最も深刻な影響を与えているのは、生物の生息地を物理的に破壊することや科学的に汚染するという行為であり、特に重要なものに森林破壊があります。その中でも、地球上の全生物種の４０％以上が生息しているとされる熱帯林の破壊は深刻で、1940年からすでに半分以上が消失しています。これは川や海の生態系にも深刻な影響を与えています。

Ｑ：②乱獲とは？
Ａ：人間が大量に野生生物を捕まえて殺してしまうという行為をさします。古くから人間は野生生物を食料としてあるいは害獣扱いをして何百万年もの進化の果てに生まれた種を１００年ぐらいの間に絶滅させてきました。これは現在も止まっていません。

Ｑ：③外来生物とは？
Ａ：人間の手により本来生息していた場所から別の地域へ移送され移送先の新天地で定着してその数を増やしている生物種をさします。生物は自らの子孫を地球により多く残すため、生育域を広げたり、より良い生育環境を得たりすることを目標としてきました。しかし分布は際限なく広がるものではなく、その生物にとって越えようのない自然の障壁によってその分布域は仕切られてきました。しかし、人間がこの不文律を無効にしてしまったのです。自然生態系では、「共進化」のため、それぞれの種の天敵も一緒に進化しますが、外来種が入った場合、ただ 1 種の略奪者が独り勝ちしてしまうのです。

Ｑ：なぜ生物多様性を守る必要があるのでしょうか？
Ａ：生物多様性はどこまで生物が絶滅したらダメになるのか、人間にとって深刻な事態になるのかはわかりません。我々はまだこの地球上にいる生物の種類さえも把握できていないし、生物多様性についてもわからないことだらけなのです。しかし、人間は生態系の頂点に立ちながら 78 億人という膨大な数に達していてこの不安定な生態系ピラミッドはいつ崩壊するかわかりません。この予測不能性を十分考慮してこれ以上の生物多様性減少を食い止めるための策を講じることは人間存続のための重要課題と言えます。一旦失ってしまった種は、二度と取り戻すことはできません。だから「分かるまで」大事にとっておかなくてはならないのです。

参考：「これからの時代を生き抜くための生物学入門」
辰巳出版　五箇公一著
「クワガタムシが語る生物多様性」
創美社　　五箇公一著

「生物多様性」という言葉は標語（スローガン）であって、実は、定義も意味もはっきりしていません。ただ私たちが、このシリーズを進めるにあたって、「生物多様性」をこのように押さえているということを、まずお伝えしたいと思い、この Q&A を作ってみました。その上で、当協会が現在取り組んでいる「子どもたちが直に生き物と触れ合う機会をできるだけ多く作ろう」という目的のために、この「生物多様性」という言葉が使える！！と思っています。「多様性は文化や芸術を生み出す素地となり、人間の情緒にも関わる重要な要素」なのです。「オタマジャクシやカニは気持ち悪いから世の中にいらない。」と言う子どもを増やしてはいけないと思います。
（19 期　横山　美喜子）

理事・監事です。宜しくお願いします。

前列右から鈴木茂研修部長(20 期)、髙橋孝紀会長(14 期)、亀山久美研修副部長(20 期)、小島恵子広報副部長(９期)
中列右から富井常雄安全対策部長(14 期)、大浪幸子副会長(８期)、原田良一広報部長(14 期)、髙橋秀総務副部長(20 期)
後列右から加藤宏監事(12 期)、福士實美経理契約部長(17 期)、櫻井道子総務部長(17 期)、原恒夫環境・森林事業部兼海岸林再生事業部長(３期)、及川信彦副会長兼施設管理事業部長(14 期)、太田厚事務局長(15 期)、渡邉淳監事(12 期)

公式ツイッター
こちらからどうぞ！！
@mifi_koushiki

宮城県森林インストラクター協会Twitter

スーさんの もりもり活動写真館

もりもり教室ではいつも子どもたちのパワーに圧倒されます。私も気持ちは負けないようにと思っていますが、ちょっと無理がありますね。

もりもり出発前の釣り教室　海釣りの基本としかけ
（7月11日）

もりもり水ヨーヨーとザリガニ、テナガエビ
（7月18日）

水鉄砲とジャガイモ収穫
（8月1日）

発行　特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会

〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢４１　青少年の森
TEL&FAX：022-255-8223
メール：mifi@bz04.plala.or.jp　HP：http://mifi.main.jp